

くりくん蒸におけるヨウ化メチル剤の安全使用

ヨウ化メチル剤推進協議会

かわかみ ふさお そうま ゆきひろ こまつ かずお
川上 房男*・相馬 幸博*・小松 和夫**

はじめに

1992年にオゾン層破壊物質に指定された臭化メチルは、国内外において使用量の削減が進められ、我が国では、検疫用途を除き不可欠用途として唯一使用が認められていたくり用も2013年12月末に全廃された。これは、以前からくり生産県、農林水産省横浜植物防疫所調査研究部などによりヨウ化メチル剤の薬効薬害試験が進められており、世界に先駆け2009年9月18日、「くり専用ヨーカヒューム®」として農薬登録され、臭化メチル代替剤として実用化の態勢が整ったことによるものである。

ヨウ化メチルは臭化メチルとは異なる理化学的性質を有し、急性経口毒性や眼・皮膚への刺激性も高く、取扱いを誤れば十分な殺虫効果が得られないばかりか、薬害の発生や重大な中毒事故を引き起こすおそれがある。また、農薬による第三者に対する危害の防止、周辺環境への負荷の低減やコンプライアンス（法令規則の遵守）が強く求められており、本剤の上市にあたっては使用環境を整備する必要があった。

このため、井筒屋化学産業株式会社（2013年10月、アリスライフサイエンス株式会社から事業を継承）は、一般社団法人日本くん蒸技術協会とヨウ化メチル剤推進協議会（以下「協議会」）を設立し、現地説明会や安全使用講習会を開催して、薬剤の取扱い、くん蒸施設・くん蒸器材の整備、くん蒸技術の付与とともに、安全使用の啓発普及を図ってきた。ここでは、その現状を

紹介したい。

I ヨウ化メチルくん蒸技術の確立

1 ヨウ化メチル製剤とその特徴

ヨウ化メチル製剤は、有効成分のヨウ化メチル99%を含有する淡黄色澄明の液体で無臭、茶色のプラスチックボトルに溶着密封され最少単位は250gである（図-1）。専用の投薬器（図-2、図-3）の中でボトルに孔を開け、流れ出た薬液を温湯などで間接的に温めてガス化



図-1 くり専用ヨーカヒュームボトル（最少単位250g）



図-2 くり専用ヨーカヒューム専用投薬器（天幕くん蒸用）

Safe Use of Methyl Iodide in on-site Chestnut Fumigation. By
Fusao KAWAKAMI, Yukihiko SOMA and Kazuo KOMATSU
(キーワード: ヨウ化メチル, くん蒸, くり, くり寄生害虫, 安全使用講習会)

現所属: * 一般社団法人日本くん蒸技術協会

** 井筒屋化学産業株式会社